

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業  
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究  
分担研究報告書（平成 29 年度）

バイオマーカーと創薬に関するプロジェクト 総括

研究分担者 金井隆典 慶應義塾大学医学部消化器内科 教授

研究要旨：AMED/厚生労働省科学研究 個別研究班の中で、炎症性腸疾患に関する研究について、難治性炎症性腸管障害に関する調査研究（鈴木班）と連携し、成果の共有を行うことにより相補相互的な研究開発の推進を行うことを本プロジェクトの目的としている。平成 29 年度は 8 つの研究班の進捗状況が発表された。

共同研究者

長沼誠、筋野智久、吉松祐介（慶應義塾大学）、岡本隆一、渡辺守（東京医科歯科大学）、芦塚伸也、北村和雄（宮崎大学）、藤谷幹浩（旭川医科大学）研究科消化器内科学）、桂田武彦（北海道大学）、鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院・消化器内科）

況・成果が報告された。

「難治性クローン病に対する神経難病治療薬 OCH-NCNP の有用性および安全性を検証する医師主導治験」班

「潰瘍性大腸炎患者に対する青黛治療の有害事象実態調査と機序解明」班

「青黛の作用メカニズムの解明」班

「培養腸上皮幹細胞を用いた炎症性腸疾患に対する粘膜再生治療の開発」班

「炎症性腸疾患における食関連リスク因子に関する研究」班

「抗菌薬 3 剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療」班

「乳酸菌由来分子を用いた新規炎症性腸疾患治療薬の開発」班

「難治性炎症性腸疾患を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施」班

A. 研究目的

AMED/厚生労働省科学研究 個別研究班の中で、炎症性腸疾患に関する研究について、難治性炎症性腸管障害に関する調査研究（鈴木班）と連携し、成果の共有を行うことにより相補相互的な研究開発の推進を行うことを本プロジェクトの目的とする。

B. 研究方法

各研究班の進捗状況や成果について年 2 回の班会議において報告をする。各研究において、患者ルクルートが必要な場合は、班長の承認を得て、班会議分担研究者、協力者に依頼を行う。（倫理面への配慮）

各研究については各施設の IRB や倫理委員会において承認が得られている。

C. 研究結果

平成 29 年度は以下の 8 つ研究班より、進捗状

D. 考察

研究班により進捗状況が異なるため、成果の状況により適切な時期に班会議で報告することが好ましいと考えられた。また今後、多施設共同で試験・治験を行う際や成果を診断・治療指針への反映させる場合に班会議のサポートが必要であると考えられる。

#### E. 結論

平成29年度はAMED/厚生労働省科学研究個別研究班の中で、8つの炎症性腸疾患に関する研究について、鈴木班にて報告された。次年度以降も密に連携をとり、相補相互的な研究開発の推進を行う予定である。

#### F. 健康危険情報

各個研究の報告書を参照

#### G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし